

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	伊村 知子			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

身近な問題を「心理学」の視点から科学的、客観的に分析することにより、人間の認知特性を理解する。

ディプロマポリシーとの関連：①健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。②自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。

目的と研究対象分野

「心理学」の視点から、人間の認知能力とその特性を実験的手法により理解することを目的とする。心理学は、情報、情報のいずれとも関わりの深い領域である。たとえば、使いやすい情報システムを設計するためには人間の基本的な認知特性を理解する必要がある。また、組織の運営には人間の社会場面での振る舞いを理解する必要がある。本研究室ではこうした人間の様々な心や行動のはたらきとそのしくみを科学的、客観的に分析する方法について学ぶ。

卒業研究 1,2 では、人間の知覚・注意・記憶・思考・意思決定・社会行動などの中から選ばれた 3 つのテーマについて 3,4 名ずつのグループに分かれて実験・調査をおこなう。これらの実験や調査をとおして、実験や調査の方法や基本的な注意点、文献の調査法、データ分析方法を学ぶとともに、研究の結果をまとめて発表することによりプレゼンテーションやディスカッションの能力を養う。

それと並行して、卒業研究 2 の終了時までに各自の卒業研究のテーマを選択し、卒業研究計画書を作成して提出する。

研究内容

卒業研究の遂行のための基礎能力を養う。

■卒業研究 1,2: 心理学実験実習

3,4 名ずつのグループに分かれ、下記のテーマについて実験・調査をおこない、結果をまとめて発表会にて報告する。

※実習内容は学生の興味に応じて変更する場合がある。

- ・視覚的注意：視覚探索課題
- ・認知的葛藤：ストループ課題
- ・記憶：単語再生課題
- ・意思決定：買物ゲームにおける商品の価値評価課題
- ・印象の測定：セマンティック・ディファレンシャル法
- ・自由課題：(例：文字の認識、顔の認知など)

①実験・調査方法の習得

Power Point, Adobe Photoshopなどを用いて必要な実験材料を作成する。

Psychopy、Visual Basicなどのプログラミング言語を用いて実験遂行用のプログラムを作成する。

質問紙の作成方法について学ぶ。

②文献調査

データベース(Ciniiなど)や図書館を利用し、各テーマについての学術論文や書籍を検索する。

各テーマに関連する学術論文(できれば英語)を読み、知識を深める。

③データ分析

Excel、その他のアプリケーションを用いたデータ処理方法について学ぶ。

対応のある t 検定、対応のない t 検定、カイニ乗検定、分散分析の方法を身につける。

④研究発表

文献調査・実験で得られた結果をまとめて、Power Pointによるプレゼンをおこなう。

発表スライドは、タイトル・目的・仮説・方法・結果・考察から構成され、グループのメンバーで分担して発表をおこなう。

発表や発表資料に対して、研究室のメンバー全員で議論する。

■卒業研究 1,2: 卒業研究のテーマの選択

複数の学術論文を読み、以下の点についてまとめた卒業研究計画書を作成する。

- ・タイトル
- ・研究目的：学術的背景、研究で明らかにする点、研究の特色と独創性、仮説
- ・研究方法：実験・調査で必要な被験者の人数、手続き、データ分析方法
- ・引用文献

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

- ・実験・調査に対する取り組み(20点×2)

卒業研究活動についての留意事項

卒業研究の活動は、基本的に 3,4 名のグループに分かれておこなうため、遅刻・欠席によりグループのメンバーに迷惑をかけないよう適切に対応すること。

学習到達目標

自ら問題を設定し、問題を解決するための情報収集能力や実験遂行能力、データの統計的解析能力を養う。

JABEE

(関連する学習・教育到達目標：F)

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	河原 和好	1	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	専門	必修	4年

分野

D 分野

目的と研究対象分野

河原研究室では主にコンピュータを用いて画像を取り扱う研究を行なっています。

具体的には、画像処理、コンピュータビジョン、画像作成（コンピュータグラフィクス）、パターン認識（画像認識）などの画像に関する研究や、その応用であるWeb作成やロボットに関する分野が研究対象となります。さらに関連分野として、アプリ作成やゲーム作成などのプログラミングや、画像から対象を音声に変更した音声処理・認識や音楽などに関する研究も対象としています。

「卒業研究1～4」では、これらに関する分野から、各自が興味を持った卒業研究テーマを設定し、独自の発想や工夫を取り入れて研究や開発を行ないます。「卒業論文」では、得られた成果を卒業論文としてまとめ発表します。

研究内容

「卒業研究1～4」および「卒業論文」の内容は以下の通りです。

「卒業研究1」では、卒業研究を行う上で必要な知識の取得や学習を行います。

- ・プログラミング・画像処理・画像作成・Web・ロボット等の分野について基礎知識の学習
- ・過去の研究テーマの紹介
- ・各自が興味を持った分野に関する調査と発表
- ・プレゼン手法や論文の書き方および研究の進め方の学習
- ・研究テーマの検討

「卒業研究2」では、卒業研究のテーマを決定し、各自のテーマについて、調査や制作および発表を行ないます。

- ・研究テーマの検討
- ・大学祭において研究テーマに関する展示を行うので、その準備
- ・4年生の大学祭における展示・発表を見る（レポート提出）
- ・研究テーマの決定および発表、研究計画の作成
- ・4年生の卒業研究発表会に参加（質問、レポート提出）
- ・就職に関する情報交換、4年生と意見交換

「卒業研究3」では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作および発表を行ないます

- ・春休みの研究成果と就活状況の報告
- ・研究テーマに関する調査や制作
- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・就職に関する情報交換
- ・中間発表会（プレゼンおよびレポート提出）

「卒業研究4」では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作を行い、研究成果をまとめて発表します

- ・夏休みの研究成果と就活状況の報告
- ・研究テーマに関する調査や制作
- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・大学祭における成果の展示・発表
- ・研究室内における成果発表会（成果報告の最終締切）
- ・卒業論文の執筆と添削
- ・卒業論文の発表の練習
- ・卒業論文データベースへの登録作業の確認

「卒業論文」では、各自の卒業研究テーマに関する成果をまとめた論文を執筆します

- ・大学祭と成果報告会が卒業研究の成果作成の締切となるので、それ以降は論文を完成させます
- ・論文の提出、発表会での発表、データベース登録の3つが単位取得の条件となります

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業研究1：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業研究2：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業研究3：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業研究4：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業論文：論文(60%)、発表(40%)により評価。

（論文：新規性、独創性、有用性、完成度による。発表：内容、わかりやすさ、態度、質疑応答の的確さによる）

それぞれの項目についてはその都度講評を行う。

卒業研究活動についての留意事項

- ・プログラミングに関する卒業研究を行なう場合は、プログラミングに関する演習や講義を受講しておくことが望ましい
- ・画像に関する卒業研究を行なう場合は、関連する授業を受講しておくことが望ましい
- ・「卒業研究」の配属に関する情報は河原のウェブページに掲載するので確認すること

学習到達目標

- ・自ら問題を設定し、計画を立て、情報を収集して考察・制作することができる（卒業研究1～4の参加態度・報告発表・提出レポートにより評価）
- ・問題について、自らの見解を加えて論文として取りまとめ、発表することができるようになる（卒業論文および発表により評価）

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	岸野 清孝			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

C分野

目的と研究対象分野

- 複雑化・高度化した社会では、個人の経験や感覚だけで企業活動をコントロールすることは不可能となってきた。とくに、経済の国際化、消費者ニーズの多様化、生産技術の革新など急ピッチで変化する経営環境に対処するためには、経営を科学的に分析することにより、経営システムの課題を解決していく必要がある。
- 経営システムを学ぶことを通じて、時代とともに激しく変化する経営環境を多角的に分析し、問題をスムーズに解決できる基本的能力を培うことを授業目的とする。
- 研究対象分野は①流通業に関する経営戦略・集客戦略・マーケティング、②商品・サービスの顧客満足向上戦略・マーケティング、③商店街・地域の活性化に関する集客戦略・マーケティング、④情報システムの評価・普及・機能に関するマーケティングである。
- 自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解を加えて記述し発表する能力を育成する。

研究内容

＜卒業研究 2＞

企業の経営システム（経営戦略、マーケティング戦略、生産・流通・物流など）について、さまざまな企業のケーススタディを行いながら、経営に関する分析手法を身につける。

具体的には、以下の手順で経営に関する分析手法の習得、ケーススタディの実施、研究テーマ選定を行う。

①定量的な分析、定性的な分析に関するテキストの輪講

- 定量的な分析（アンケートによる分析手法、スコアカードによる評価手法）、
- 定性的な分析（問題構造化分析手法）

使用テキスト「卒業論文の作り方～複合領域分野における経営学研究の進め方」

②卒研テーマと研究の進め方を検討し、研究計画の作成と発表を行う。

＜業界・企業に関する研究の例＞

- 「ワタミ（坐・和民）の顧客アンケート調査による問題点の改善」
- 「すき屋と吉野家の経営分析—狂牛病発症時の戦略分析とアンケート調査一」
- 「ビザハット新潟寺尾東店の問題点と解決」
- 「新潟で活躍するスーパー3社の店舗調査・評価による問題分析と改善提案」
- 「ホームセンターの経営分析と店舗運営の評価」～コメリとアークランドの比較分析評価～
- 「ドラッグストアの経営分析と店舗運営の調査・評価による提案」
- 「トイレタリー業界における花王とライオンの経営戦略・業績の分析」
- 「100円ショップ各社の戦略展開」～ダイソーがダントツトップの理由～
- 「トヨタの高級化・低価格化戦略」～競合他社との比較による成功要因の考察～
- 「ドコモ・AU・ソフトバンクの経営比較」
- 「日本ゲーム企業の戦略」
- 「家電量販店と町の電気店の経営戦略」
- 「企業の社会的責任（CSR）への取り組みレベルの評価と分析」

＜商品・サービスに関する研究の例＞

- 「化粧水に対する満足度調査と改善提案」
- 「J-POPのCD売り上げに関連する要因の分析」
- 「日本映画産業と邦画の現状と問題点」
- 「日本プロ野球に対する制度改革の提案」
- 「Jリーグの成績順位に影響を与える要因分析と順位を上げるための提案」

＜商店街・地域に関する研究の例＞

- 「新潟市西蒲区岩室における農産物直売所を活用した活性化提案」
- 「加茂市中心商店街の現状分析と活性化への提案」
- 「戦国ブームを利用した地域振興の課題と提案」
- 「フリーマーケットの意義と出店者の意識調査」

＜情報システムに関する研究の例＞

- 「電子書籍に対する端末の適応性に関する評価」
- 「日本におけるスマートフォーン普及のための問題点と改善提案」
- 「インターネット広告は日本でナンバーワンの広告媒体になれるか」
- 「電子マネーの普及に関する評価と普及のための提案」
- 「バイオメトリクス認証を用いた入退室管理の経済性評価」

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

＜卒業研究 2＞

卒研における討論、報告、発表（50点）、②提出課題レポート（50点）により評価する。

卒業研究活動についての留意事項

- 卒業研究の授業に就職活動などで欠席の場合は、事前にメールで連絡をすること。必ず別の日にメールでアポイントを取り指導を受けること。これを行わないと卒業論文が完成しなくても責任は持たない。
- 卒業論文の提出、卒業論文発表会での発表、卒業論文のDB登録の全てを行わないと単位を与えない。
- 卒業研究の授業に就職活動などで欠席の場合は、事前にメールで連絡をすること。必ず別の日にメールでアポイントを取り指導を受けること。これを行わないと卒業論文が完成しなくても責任は持たない。

学習到達目標

自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解を加えて記述し発表する能力を育成する。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	近山 英輔			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

D、B分野

目的と研究対象分野

生命は膨大な数の組織化された生体分子が協同的に相互作用し、知的情報処理を行うシステムである。その仕組みには謎の部分がある。その謎に、コンピュータ、ハードウェア開発、実験、理論分析等でアプローチする研究を行うことを中心にしている。キーワード：細胞シミュレーション、専用計算機、核磁気共鳴装置（NMR）、顕微鏡、生物情報科学（バイオインフォマティクス）、システム生物学、食品科学、ニューラルネットワーク、ロボット。

研究内容

卒業研究テーマを決定し、関連する英語文献の調査、卒業研究中間発表会を行う。

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

演習点（50%）+発表点（50%）+成果点（追加点）で評価する。演習点は、研究の進捗報告内容に対応させ、発表点は、研究室内で開催する発表会の内容に対応させ、成果点は、原著論文の一部に貢献できる研究成果があった場合 20 点、それが少しあった場合 10 点、それが出つつある場合 5 点、それがない場合 0 点とする。総計で 100 点を超えた場合 100 点とする。

卒業研究活動についての留意事項

- ・研究テーマは教員が提示し、学生と相談しながら、教員が最終決定する。
- ・研究ノートを配布する。卒業時に返却すること。決して紛失しないこと。
- ・過去の卒研生からの引継ぎ研究テーマが多いため、卒業研究や卒業論文に必要な資料、リソース、過去の卒論・発表資料等は研究室の共用サーバーから取得し、用いたり、参考にしたりすることができる。

学習到達目標

- ・研究とは何かを説明することができる
- ・研究室で用意された資料を用いて、自発的に背景知識を勉強することができる
- ・研究室で用意されたガイドラインに従って、自発的に卒業論文を執筆することができる
- ・教員と協調・協力しながら自発的に研究に取り組むことができる
- ・打ち合わせ事項や研究のメモを研究ノートに取ることができる
- ・教員と協力しながら、研究データの分析と考察ができる
- ・分析データのグラフをエクセル等で作成することができる
- ・発表資料をワード、パワーポイントで作成することができる
- ・自分の研究内容を他人に説明することができる
- ・自分の研究内容を公の場で発表することができる
- ・自分の研究発表に対する質問に応答することができる
- ・他人の研究発表を理解することができる
- ・他人の研究発表に対し質問することができる
- ・文献の内容を他人に説明できる。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	近藤 進	1	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×
分野							
D分野							
目的と研究対象分野							
情報システムの基盤技術である、エレクトロニクス、通信、光に関する分野について研究する。テーマを自分で見いだし、論文としてまとめることを目的とする。							
内容については必ずしも最先端の技術や研究にこだわらない。有効な使い方など独自の新しい発想・工夫を展開して自主的に問題を解決することを目的とする。							
本研究室では、部品・システムの製作・実験・調査など体を動かす研究が多く、この様な方法に興味のある学生を対象とする。通信・光・環境・福祉・農業まで広い分野を対象としており、各自の興味に対応したテーマを設定できる。							
研究内容							
卒業研究 1・卒業研究 2							
研究するテーマを探索するために、エレクトロニクス・通信・光に関する基礎的な勉強を行う。							
関係する論文の輪講を行う。							
PC、LAN、無線レシーバ、スペクトルアナライザ、分光器、等、機器の基本的な使用法を修得する。							
センサー・マイコン・モータ・LED のような簡単なシステムを演習する。							
さらに、どのようにこれらの技術がどのように使われているか調査する。							
工場見学は、1コマ授業となったため未定である。(2015年度は別の時間枠で実施した。)							
これらの結果をふまえ研究テーマを企画する。							
【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
授業への参加態度 50%							
発表・レポート 50%							
卒業研究活動についての留意事項							
・教科書 通信全体、移動通信、光ファイバー通信に関する文献を開始に合わせて指定する。							
・分野が多岐にわたるので、基礎的なものについてはその都度指定する。							
・上記の文献や過年度の卒業論文を取りかかりとして、研究生自ら探索する。							
・テーマによっては長時間をするもの、特別の気候、時間帯を必要とするものもあり、休業中や休日や夜間でも研究を行う。電界強度のように屋外で、特定の時間・中山間地等の特定の場所で測定する場合もある。さらに、回路・装置・計算機などを組み立てることもある。							
学習到達目標							
・独自のあたらしい発想工夫により問題解決ができる。自らの問題について、論文をまとめ、発表することができる。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標 : F							

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	桑原 悟	1	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

A 分野

目的と研究対象分野

研究対象：教育、産業、地域などに関係する情報システム又はその要素

研究内容

卒業研究 2 は、4年生からの本格的卒業研究、論文作成のための前段という位置付けです。コミュニケーション技術を含み、一般的な事項及び各人の研究テーマに個別に必要な事項について取り組みます。

- 01) オリエンテーション
- 02) 各自の卒論作成のための活動
- 03) 各自の卒論作成のための活動
- 04) 各自の卒論作成のための活動
- 05) 各自の進捗の確認
- 06) 各自の卒論作成のための活動
- 07) 各自の卒論作成のための活動
- 08) 各自の卒論作成のための活動
- 09) まとめ作業 1
- 10) まとめ作業 2
- 11) 中間報告のための資料の作成
- 12) 中間報告のための資料の作成
- 13) 中間報告のための資料の作成
- 14) 各自の中間報告
- 15) 各自の今後の進め方の決定

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

論文作成のための研究の中間成果物、報告、発表などで評価します。

S：目標水準を大きく超えた場合

A：目標水準より優れている場合

B：目標水準を十分満たした場合

C：ようやく目標水準に達した場合

D：目標水準に達していない場合

遅刻、欠席、その他努力を怠った場合は、減点します。

卒業研究活動についての留意事項

特になし

学習到達目標

卒業研究 1 で設定したテーマに対し、具体的な計画に基づいて、情報収集、創造又は分析を行い、妥当な成果又は結論を得る能力及び、それを記述し発表する能力を身に付けることを目標とします。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	高木 義和			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	専門	必修	4年

分野

目的と研究対象分野

目的

卒業研究を通して以下の能力の向上を図ることを (curating content) 目的とします。

- ・大量の情報に振り回されず自らの判断で情報を処理できるようになる。
- ・自分の意志を確認し目的や目標、興味のある研究テーマなどを設定できるようになる。
- ・体系的かつ論理的に情報の収集・加工・分析・文章による情報発信ができるようになる。
- ・設定したテーマに関する基礎知識と情報を自分で獲得できる（情報収集方法は個別に指導します）ようになる。
- ・情報社会や情報文化に接する自らの感性を高めることができるようになる。

研究対象分野

情報コース : SQL や Access を使ったデータベースの構築に興味が持てる人や、情報検索システムに興味のある人が対象になります。学外から Web 上で閲覧可能なデータベースの作成を試みます。扱う分野に制約はありませんが著作権に抵触せず、類似データベースと異なる新しい視点を含むことが必要です。先輩が作成した 60 以上のデータベースは学外から閲覧可能になっています（高木の HP からリンク有）。

【論文の例示】（これまでに 78 DB が作成されています）

- ・PostgreSQL による就職活動向けメール文例集データベースの構築
- ・外国人観光者向け英語の温泉データベースの構築に関する研究
- ・三国志に登場する人物データベースの構築に関する研究
- ・食品の栄養成分データベースの構築に関する研究
- ・食用魚介類データベース構築に関する研究
- ・新潟県の方言データベースに関する研究

経営コース : 新商品開発、事業戦略、ブランド戦略など新しい価値を創造することに興味のある人が対象となります。新ビジネスの提案、情報文化、CSR(企業の社会的責任)、著作権、環境などの分野も対象になります。目標規定文の推敲をとおして、情報に基づいて論理的な判断や新しい概念の創造ができるような指導を心掛けます。テーマ設定のため十分な予備調査を行ない自分が興味持てる妥当な研究テーマを設定します。

【経営コース論文の例示】（これまでに 95 の論文が作成されています）

- ・マーケティングツールとしての Facebook の可能性
- ・女性ファッション雑誌の付録による購買意欲向上に関する研究
- ・少子化社会における玩具産業の新ブランドマーケティング戦略
- ・ソーシャルメディア時代のコミュニティアイドル
- ・新潟みなとトンネルと柳都大橋の事業評価に関する研究
- ・ホームヘルパーの人材確保に関する研究
- ・少額決済取引における電子マネーの利便性と今後の可能性に関する研究

研究内容

卒業研究 I

1回目：卒業研究の概要

2-8回目：情報リテラシー基準に関する論文の輪読（情報活動や情報収集の基礎知識習得）

9-15回目：コミュニケーション能力の向上；情報リテラシー基準の発表画像を閲覧し自己のコミュニケーション態度を客観的に評価する。

卒業研究 II

1-10回目：

【情報コース】

- ・データベースサンプルプログラムの稼働（SQL と PHP を使った動的な Web ページの仕組の理解）
- ・SQL, PHP の使用できる研究室のサーバにユーザ登録し個人別環境でサンプルを稼働させます。

【経営コース】

- ・ICT を利用したビジネスモデルの創造（ブレーンストーミング、事業計画作成を含む）
- ・グループで作業を行い事業内容、市場環境、競争優位性、収支予測を含む事業計画書を作成する。

11回目：論文の書き方の理解（序論・本論・結論の構成）

12-14回目：自らの意志と価値観に基づく卒業論文の仮テーマ設定

- ・予備調査を続行し収集した情報を 2000 字にまとめ仮テーマを設定します。

15回目：春休み以降の計画作成

卒業研究 III

1-2回目：予備調査で明らかになった課題をとりまく現状のまとめ

3回目：研究テーマの修正と決定

4-5回目：目標規定文と主張点の作成

- ・独自の視点（主張点）を文章で表現し情報収集を効果的に実施できるようにする。
- ・データベースの場合は使用仮説にもとづいて類似データベースと異なる新しい視点を明らかにする。

6回目：情報収集と文献の引用方法の理解

7,8回目：

【情報コース】

- ・使用仮説に合ったデータ構成と著作権に触れないコンテンツの収集

【経営コース】

- ・テーマに関する情報取集範囲の設定と目標規定文の修正

- 9-11回目：主張点を論理的に説明できる目次の作成
 12回目：論文を構成するために不足している情報の洗い出し
 13回目：
 【情報コース】コンテンツの収集目標点数と情報収集計画
 【経営コース】目標規定文の修正と情報収集計画
 14, 15回目：目次の推敲と序論の作成

卒業研究 IV

- 卒業論文の内容に関する個別指導は卒業研究 IV の時間とは別に行います。
- 1回目：正確な日本語と論拠に基づいた論理的な論文の構成
 2-3回目：1章の作成確認
 4-5回目：2章の作成確認
 6-7回目：3章の作成確認
 8-9回目：4章の作成確認と参考文献リストの作成
 10回目：1回目校正と論拠情報の補強
 11回目：2, 3回目校正と主張点に関する論文構成の妥当性検証
 12回目：卒業論文の製本と卒業論文登録データの作成
 13回目：卒業論文発表会原稿の作成
 14回目：文章の修正個所のまとめ
 15回目：論理的文章作成のための個人別資料作成

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業研究	
演習に参加する態度	50%
レポート	50%

卒業論文

文字で表現された内容の信頼性	40%
新規性	30%
論理性	30%

卒業研究活動についての留意事項

- 卒業研究では卒業論文を作成するため全員に共通して必要な内容を指導します。
 卒業論文の内容に関する個別指導は卒業研究とは別の時間に行います。
 4年生の夏休みに合宿を行い正確な日本語による序論作成の演習を行います。
 情報検索は情報収集の有力な手段ですが利用できる情報には限界があります。
 Web情報を卒業論文の論拠として使用する場合は蓋然的な信頼性が認められる情報に限定します。
 論文作成にあたり、卒業研究3ではアルバイトの継続が大きな障害になるため4年生の9-11月のアルバイトは中止するか極力減らしてください。
 学習到達目標
 自らの意志と価値観を認識して仮テーマを設定できること。
 情報収集のため目的・目標を設定し、体系的に情報を収集し、収集した情報に基づいて考察できること。
 自己の独自の視点を正確な日本語で論文に反映できること。
 その結果として、情報を使いこなすための知識と、社会環境や人間活動に深くかかわる情報システムの機能と仕組みを習得することを目標とする。
 関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
				国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	×	×	×
				情報文化学部情報システム学部経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学部情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

G分野

目的と研究対象分野

身边にあるさまざまなシステムに興味を持ち、そこで起こる問題を発見し、モデル化し、解決する方法を習得する。具体的には、生産、物流、道路交通、病院、銀行業務などのシステムを調査・分析し、離散系シミュレーション言語を用いてシミュレーションモデルを構築し、シミュレーション実験をおこない、問題解決策を検討する。

そのため、卒業研究2では、離散系シミュレーション言語の習得およびシステムへの応用（道路交通システム）をおこなう。

研究内容

離散系シミュレーション言語の習得.

- ① 道路交通モデルの構築およびその発表.
 - ② 現実のシステムへの応用およびその発表.
 - ③ 各自研究テーマの決定およびその発表.

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

成果物（シミュレーションモデル）：50点、発表会：50点により評価する。

＜発表会のフィードバックについて＞

発表会の都度、講評をおこなう。

卒業研究活動についての留意事項

特になし

學習到達目標

現実の問題に対して、適切な道具（離散系シミュレーション言語）を適時的確に使い、問題解決プロセスを適用し、結果を正しく解釈し、研究成果を適切に表現できる能力を育成する。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	山下 功	1	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

27年度以降の入学生は分野を定めない。

目的と研究対象分野

山下研究室では、管理会計と原価計算を中心とした会計学について研究します。

管理会計は、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。なお、主な周辺学問領域として、原価計算、簿記学、経営学、生産管理など挙げられます。

管理会計で最も大切なことは、「会計情報を利用する」ことです。そして、企業の目標とは究極的には利益を獲得することです。授業では、会計情報をを利用してより多くの利益を獲得する方法について議論します。

【関連する学位授与方針：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。】

研究内容

- ・管理会計のテキストを輪読して、基本的な知識を身につけます。
- ・卒業論文のテーマを検討します。

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

課題レポート50%、報告及び討論50%で評価します。

卒業研究活動についての留意事項

山下研究室では、以下のような学生、またはこれから以下のようにになりたい学生を求めてています。

- ・世の中の様々な現象に深く関心を持っている人。毎日の通学で見る町並みの移り変わりなどの、身近なことでもいいのです。
- ・世の中の流行に惑わされない人。自分自身の考えを持つことが大切です。
- ・自動車・電機・機械などの製造業(物づくり)が日本の産業の中心であると考えている人。情報、金融、その他のサービス業、農業などももちろん重要なのですが、それらの産業は、製造業が築いた確固たる土台の上で成り立っています。そして、管理会計や原価計算の基本は製造業です。
- ・管理会計を真剣に学ぼうという意欲のある人。今現在の簿記や会計に関する知識や資格の有無は、選考には影響しません。但し、研究室配属後は勉強してもらいます。

山下研究室に配属が決定した後の留意事項は、以下のとおりです。

- ・自習または財務会計の授業でビジネス会計検定試験3級の学習を行い、会計学の基本的な知識を修得してください。
- ・山下担当の講義科目である、財務会計と管理会計を必ず履修してください。
- ・やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、事前に連絡をしてください。無断欠席は好ましくありません。授業に毎回出席することが、管理会計に限らず、専門的な知識を身につけることの早道です。

学習到達目標

管理会計について理解し、深く関心を持ち、大学の中だけではなく日常生活全般においても知的好奇心を絶えずはたらかせて、その中から自分自身が疑問に思っている問題点を明らかにし、それを管理会計の論文として表現できるようになることを目標とします。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	石井 忠夫			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

研究分野としては、情報化社会において基盤となる技術や仕組み、情報システムの設計に関わる理論、情報システムの構築、及び論理学などである。

目的と研究対象分野

- (1) 情報化社会において基盤となる技術や仕組み
現代社会において基盤となる技術や仕組みを調査研究し、その問題点や改善策を考察する。
- (2) 情報システムの設計に関わる理論
情報システムの構築に向けた要求分析と設計に関わる理論を修得し、現実世界の具体例に応用する。
- (3) 情報システムの構築
情報システム構築のためのプログラミング言語を習得し、現実世界で有用なソフトウェアを実装する。
- (4) 論理学
知的活動において規範となる論理学の基礎を修得し、卒業研究の推進に活用する。

研究内容

卒業研究 2 では、情報システムの設計に関わる理論を修得し、卒業研究テーマの具体例に応用する。また、プログラミングの基礎として GUI 画面の作成に取り組む。

- (1) 情報システムの設計に関わる理論として、オブジェクト指向モデリングを行う。
次の手順で進める。
① 構築したい情報システムをイメージする。
② 情報システムの利用法を検討し、利用例（ユースケース）リストを作成する。
③ 各利用例を実現する手順を定義する。この時、必要に応じて利用者とシステム間のインターフェイス（GUI 画面など）を決定する。
④ 上の手順からオブジェクトを抽出し、オブジェクトが持つ属性と振る舞いのリストから成るオブジェクトが属するクラスを定義する。
- (2) プログラミングの基礎としてクラスの定義とオブジェクトの生成法を学び、卒業研究テーマの具体例に適用する。
⑤ GUI 画面のクラスを定義し、プログラムで各画面を表示する。
⑥ 他のクラスについても、その枠組みをプログラムで定義する。
⑦ プログラムの開発と実行環境を整える。
- (3) 本卒業研究 2 の成果として、プログラム開発仕様書と GUI 画面のレイアウトおよび画面遷移図を作成する。

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

オブジェクト指向モデリング演習結果の発表態度が 40%、レポート課題が 40%、プログラム開発仕様書が 20%で評価する。

卒業研究活動についての留意事項

- ・情報コースの人を受け入れる。
- ・予備知識は特に必要としないが、基礎科目「論理と数理」を受講していることが望ましい。
- ・真剣に取り組める人を歓迎する。
- ・プログラムの開発に興味がある人を歓迎する。

学習到達目標

自分で新しいテーマ（問題）を認識すると共に、その解決のために論理学やソフトウェア工学などの関連科目を修得し、対象をモデル化して自ら問題の解決を図る能力を養う。さらにその課程の中で自分が取り組んだ内容を的確に纏め、発表する能力を養う。

JABEE

関連する学習・教育到達目標 : F

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	小林 満男	1	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

A分野・C分野

目的と研究対象分野

現在、企業は高齢化・少子化の進展により社員の確保・技術継承の問題、規制緩和等による競争の激化など多くの課題に直面しており、特に、地球温暖化と関連して環境問題や自然を含めた大きな視点から経営をとらえる必要に迫られています。そのため企業や国・自治体においては、これらの課題を克服する構想をあたため具体的な解決をもたらすソリューション能力が求められています。そこでは情報や情報システムの開発・利活用がひとつの鍵を握っていると考えられます。

卒業研究では、自然科学や社会科学にとどまらず、人文科学も含めた学問を総動員しながら、社会とのかかわりを重視しつつ、経営・組織、情報システムの面から卒研生が選定した研究テーマについて主体的に進めていただきます。そのため、最初に A 分野（情報とシステム）と C 分野（経営と組織）全員によるリサーチリテラシー（研究方法論や卒業論文の書き方）について基礎的な学習と演習を行った後、夫々の卒研生から研究テーマに関連する先行研究、参考文献について要約報告してもらい、卒研生全員で共有します。

これらの作業と併行して個別に論文作成指導を実施します。

研究内容

- ・企業や各種団体における情報及び情報システムの戦略的利活用に関する研究
- ・下記のキーワードに関連する卒研生が希望するテーマの研究

(キーワード)

企業戦略、経営組織、人的資源管理、情報及び情報システムの利活用、防災・減災、地域創生研究他

[研究内容]

- ①企業経営に関するケーススタディを行います。（成果物：レジメ、発表資料、感想文、（質疑応答を含む））
優良企業をとりあげ、情報、情報システムの利活用等の観点から分析を行う
- ②現地調査、データ収集、分析、解決策の検討、または先行研究調査
- ③予備論文（または先行研究の要約）を作成します。（成果物：予備論文または先行研究の要約資料）

（注）講義毎に「卒研進捗報告書」の提出を求めます。

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

授業の取組（卒研進捗報告書、発表における討議など）と自ら問題を設定し、計画的に研究を進める能力（60%）と先行研究等の要約または予備論文の内容と発表、ディスカッション（40%）を評価する。

<フィードバック>

講義の中で、学生が執筆したケーススタディ（レポート）、卒研進捗報告書、予備論文等の記述例をとりあげ講評する。

卒業研究活動についての留意事項

卒業研究では、「健全な社会生活を営むための常識を持ち、地球的な視点から多面的にものごとを考え、他者と協力して問題解決にあたることができないこと」をめざすので、研究室として取組む地域活動、夏期合宿（4年生）、懇親会（茶話会）には積極的に参加してください。

学習到達目標

自ら問題点を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解を加えて論文としてとりまとめ、発表する能力を育成する。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究2	上西園 武良			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	専門	必修	4年

分野

日分野

目的と研究対象分野

本研究室では、私たちの日常生活の中で「使いづらい」や「快適に使えない」と感じられる「モノやシステム」を取り上げ、人間工学の手法を使って解決策(=人の特性により合っている)を見出すことを目的とする。

研究対象は、自分自身で「使いづらい」や「快適に使えない」などの実感がある「身近な製品(家電、家具など)」や「身近な公共物(学校、駅、公園など)」等とする。自分自身の実感のないテーマでは研究に対するモチベーションが低く、困難に遭遇した時に挫折しやすいためである。

研究の進め方としては、まず当該対象に関する文献調査を徹底的に行い、既存研究でどこまでなされているかを明確にする。この結果に立脚して各自の仮説を設定する。さらに、設定した仮説の検証に当たっては、実験(または調査)に基づいて行う。従って、本研究室では実験(主に被験者実験)主体の研究となる。

研究(課題解決)を進めるにあたってはQC(品質管理)手法が有効であるので、本研究室ではQC手法の習得と実践を行う。

【対応するディプロマポリシー】

- 健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。
- 情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。
- 仕事の仕組みをシステム的に考え、データを重視した論理的な判断ができること。
- 自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。

研究内容

(1) 研究の流れ

卒業研究1~4を通じての全体の流れは以下のようである。

- 研究フローの学習
- 研究テーマの設定
- 文献調査によるテーマ遂行可能性の判断
- 仮説の設定
- 予備実験による仮説の事前検証
- 本実験による仮説の検証
- 論文の執筆、発表資料の作成
- (2) 卒業研究1: 研究フローの学習
 - 与えられたテーマについて一通りの研究フローを実施し、研究の流れを学習する
- (3) 卒業研究2: 研究手法の獲得、研究着手
 - 研究テーマの設定: 自分自身で「使いづらい」や「快適に使えない」などの実感があるテーマを見出す。
 - 文献調査: 文献調査によって当該テーマについての過去の研究例を徹底的に調査し、当該研究テーマの遂行可能性を判断する。「既に解決済」や「研究の余地無し」の場合は研究テーマを再設定する。
 - 仮説の設定: 文献調査の結果に立脚してオリジナルな仮説を設定する。
 - 予備実験による仮説の事前検証: 少人数(5~10名程度)の被験者実験により仮説の事前検証を行う。仮説を否定する実験結果となった場合は、実験方法の見直しあるいは仮説の再設定を行う。
- (4) 卒業研究3: 研究遂行
 - 本実験による仮説の検証: 20~30名の被験者実験を行い、仮説検証の精度を向上させる。
- (5) 卒業研究4: 研究成果のまとめ
 - 卒業論文の作成、発表

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

自主的に研究を推進できる能力、与えられた制約下で計画的に研究を実施できる能力、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力、および、卒業論文の内容、卒業発表の内容を総合して評価する。

- 卒業研究は、①日常の研究態度と研究への取り組み姿勢(60点)、②報告・発表の出来具合(40点)により評価する。
- フィードバック: 学生各自と面談を実施し必要なフィードバックを行う

卒業研究活動についての留意事項

- 当研究室を志望する場合、事前の研究室訪問を必須条件とする。
- 採用基準は、第1基準「志望動機の強さ」及び第2基準「人間工学1の成績」とする。
- 研究室活動として、本来の研究遂行と並行して「社会人としてのマナーの育成」を重視する。
- 授業は定時(9:00)に開始する。遅刻は「社会人としてのマナー」として失格であるので厳禁とする。
- 病気等で授業に出席できない場合は、事前に欠席理由をメール連絡することを必須とする。余程の理由(例えば、メールもできないほどの重病など)がない限り、欠席の事後連絡は「社会人としてのマナー」として失格である。
- 授業欠席の場合は、欠席分の補習を別の日に実施する。
- 被験者実験は他の人の協力なしには行えない。各学年の研究室生(10名程度)同士だけで相互に被験者となるだけでは人数が不足であるので、他学年の研究室生にも被験者の役割を担ってもらう。このため、他学年同士の交流を重視する。
- 卒業研究もひとつの課題解決である。課題解決のために有効な手段としてQC手法を用いる。このため、全員が3年前期でQC3級の資格取得を目指す。"

学習到達目標

- 課題発掘能力の獲得: 自らテーマを設定し、「その研究を行う意義」と「研究の位置付け」を明確にできる。
- 課題解決能力の獲得: 自らの課題解決に当たり、「必要な情報入手」や「適切な手法(実験方法、調査方法など)の入手・実行」を通じて、問題解決が行える。
- コミュニケーション能力の獲得: わかりやすい資料で、適切なプレゼンテーションが行える。

JABEE

関連する学習・教育到達目標: F

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	西山 茂			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

A 分野

目的と研究対象分野

① 卒業研究の意義は研究のプロセス（テーマの設定から成果の発表まで）を体得することにある。このプロセスは、研究限らず広くビジネスの一般でも極めて重要である。

② コンピュータを使ったシステムをソフトウェアシステムと呼ぶが、現代においてソフトウェアシステムビジネス及び個人生活の隅々にまでいきわたっている。

③ ソフトウェアシステムは、人間活動の一部をコンピュータに肩代わりさせるものであるため、人間の活動を正確に理解せずにソフトウェアシステムを作っても本来望んだようには動作しない。また、人間とコンピュータは異なった原理で動作（行動）しているため、人間の活動に何の変更も加えずにコンピュータに肩代わりさせても、やはり本来望んだようには動作しない。そこで、本研究室の卒業研究の主テーマは、次のように定める。

(ア) 人間活動の理解。ただし、単に人間活動といった場合は、きわめて広範囲の活動を指すことになる。このため、本研究室卒業研究では、主としてビジネス活動に制約することとする。

(イ) 人間活動とソフトウェアシステムの最適な関係に関する研究”である。ただし、単に人間活動といった場合は、きわめて広範囲の活動を指すことになる。

④ この枠組みの中で、各自研究テーマを設定し、問題を分析し、その解決案を提案し、その有効性を検証するという一連のプロセスを実行する。ただし、学生が独自の良いテーマを提案した場合、学生と西山の協議によりこれをテーマとすることも妨げない。

⑤ 卒業研究の最初に本研究室の研究の共通基盤となる“人間活動とソフトウェアシステムの係わり”をテーマに、人間活動にとってソフトウェアシステムとは何か、課題は何かを学ぶ。併せて、問題分析法、検討結果のまとめ方についても学ぶ。

⑥ 卒業研究のテーマは卒業研究の大枠の中で自分のアイディアや問題意識に基づいて選定する。卒業研究は、適切な課題設定、仮説設定・検証、各種手法（技法）を用いた問題分析・評価、整理によって実施する。

⑦ 研究成果は通常は「研究論文」にまとめる。新規事業的発想であれば「新規事業開発の事業計画書」にまとめる。

本授業は、以下のディプロマポリシーに関連する。

<情報システム学について理解し、情報システム領域の基本的な専門技術を修得していること。>

<自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。>

研究内容

“人間活動とソフトウェアシステムの関係”を通して、ビジネス活動における要件定義（獲得）の重要さを学び、ビジネス分析のスキルを身に着ける

① ソフトウェアシステム開発で困難に陥ったシステムの例を調査し、ソフトウェアシステムが正しく動作するというはどのようなことかを理解し、各自の理解を整理してプレゼン形式で報告する。

② ビジネス分析の知識を整理した BABOK (Business Analysis Body of Knowledge) を読みビジネス分析のスキル身につけるとともに、理解度を確認するため、各自の理解内容をプレゼン形式で報告する。また、各種ツールについても習得する

③ 仮の論文テーマを設定する。

教科書として、以下の3冊を使用する（卒業研究Iで使用したもの）。

a)情報表現力 noa出版

b)仮説↔検証 noa出版

c)考える力、イノベーションクラブ著、ダイヤモンド社 ISBN978-4-478-02192-7

教員が指定した事項に関して、毎回1時間以上事前・事後調査を行うこと。

成績評価

- ・研究会（授業）における討論への参加態度（40%）
- ・日常の研究態度と研究への取り組み姿勢、および研究会（授業）での報告・発表の内容（20%）
- ・ソフトウェアシステムの問題点の理解(20%)
- ・BABOKに対する理解（20%）

<フィードバック法>

- ・提出された資料、発表・報告、取り組み姿勢などは授業の中で指摘する。

卒業研究活動についての留意事項

1) 卒業研究1~3の期間は、卒業後のキャリア形成の第一歩を決める大事な時期もある。そこで卒業研究では「研究会（授業）」で演習を行いながら、各自の「卒業研究遂行・卒業論文完成」と「進路決定・就職達成」を並行して指導する。これらの何れも、各人が自主的に自分の責任において行い、目標達成まで努力する。

2) 卒業研究3の履修生と卒業研究1の履修生が交流する機会を設け、テーマ設定や研究の進め方に関して意見交換を行い、相互に刺激を受けることができるようになる。

学習到達目標

- ① 自ら情報を収集・整理し、問題を設定する。②スケジュールを立て、仮説を立てて問題解決にあたる。③自己及び他者の発表に対して有効にコミュニケーションができる。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	中田 豊久	1	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	専門	必修	4年

分野

D 分野

目的と研究対象分野

人々の様々な活動を支援するためのコンピュータシステム、またはプログラムについて研究する。まず自ら課題を見つけ、その課題を克服するためのシステムを設計、構築する。そして構築したシステムが本当に課題を克服できているかを評価する。自主的、計画的に自ら情報を集め、考察することが求められる。また、自ら行ったことを他者に分かりやすく説明するために、論文を記述して発表することを学ぶ。

研究内容

研究内容は、履修生と話し合いの中で決定していく。以下に示す内容は、その一例である。

卒業研究 1: プログラミング実習

- ・プログラミング実習、プログラミング言語の選定は、実習内で行う。
- ・研究テーマの検討を行う。

卒業研究 2: 研究テーマの決定

- ・プログラミング実習、プログラミング言語の選定は、実習内で行う。
- ・卒研テーマを検討し、決定をする。

卒業研究 3: それぞれのテーマに従って研究の実施

- ・研究進捗の報告会を定期的に行う。

卒業研究 4, 卒業論文: それぞれのテーマに従って研究の実施

- ・研究進捗の報告会を定期的に行う。
- ・卒業論文を作成する。

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業研究 1: プログラミング実習 80%、卒研進捗 20%の割合で評価する。

卒業研究 2: プログラミング実習 80%、卒研進捗 20%の割合で評価する。

卒業研究 3: 卒研進捗の報告会 100%の割合で評価する。

卒業研究 4: 卒業論文: 研究進捗の報告会 100%の割合で評価する。

卒研の内容の変更に従って、履修者の同意のもとで評価基準を変更することがある。

卒業研究活動についての留意事項

＜受講に当たっての留意事項＞

情報処理演習 02 程度のプログラミング技術を持っていることが必要である。

＜研究室配属の学生選択基準＞

研究室配属の説明会で提示する。以下に 2015 年の選択基準を例として示す。

情報論理の(1)履修状況、(2)出席状況、(3)成績、(4)研究室訪問での内容、(5)志願書の志願理由、を基準に決定する。それぞれの括弧内の数字は、基準として優先する順位である。

学習到達目標

- ・社会や人に対する課題を見出し、その課題を克服するシステムを考案する。
(卒研 1, 2: 研究テーマの検討)
- ・プログラミング技術の基礎を身に付ける。
(卒研 1, 2: プログラミング実習)
- ・システム構築に対して、自ら必要な技術を調査、習得することを学ぶ。
(卒研 1, 2, 3, 4: 卒研進捗)
- ・構築したシステムの客観的な評価を実施することを学ぶ。
(卒研 4: 卒研進捗)

JABEE

関連する学習・教育到達目標: F

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	藤瀬 武彦	1	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

経営コース (B 分野 : 人間と社会)

目的と研究対象分野

本研究室では主に健康スポーツ科学関連の分野について研究指導を行う。その内容は私たち人間にとって最も身近な「身体の組成や機能」に関する研究、「健康体力づくり」や「競技スポーツ」に関する研究、さらには私たちの生活に関わる「医療」や「交通」などの問題についての研究にまで及ぶ。授業では興味のある事柄に関する文献等を精読するとともに卒業論文のテーマを決定し、実験・測定・アンケートによって必要なデータを収集し、統計的手法を用いて分析することなどを行い、最終的に卒業論文を完成させることを目的とする。

卒業研究 2 では、各々が卒業論文のテーマにつながるような研究論文を精読することにより基礎知識を身に付けるとともに発表用の資料を作成してプレゼンテーションを行う（抄読会）。そして、精読した論文などを参考にして卒業論文計画書を作成する。

研究内容

- 1) 卒業研究 2 ガイダンス
- 2) 文献検索の方法
- 3) 文献収集
- 4) 抄読会資料作成
- 5) 抄読会① (2名程度)
- 6) 抄読会② (2名)
- 7) 抄読会③ (2名)
- 8) 抄読会④ (2名)
- 9) 4年生卒論発表練習会に参加
- 10) 卒業論文計画書作成の要領
- 11) 文献収集と卒業論文計画書作成①
- 12) 文献収集と卒業論文計画書作成②
- 13) 4年生卒業論文発表会に参加
- 14) 卒業論文計画書作成③
- 15) 卒業論文計画書作成④ (提出)

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

授業中の課題や質疑応答などによる演習点 60 点（遅刻等による減点あり）及び課題点（レポート等）40 点により評価する。

卒業研究活動についての留意事項

できる限り遅刻や無断欠席（事前に本人が届を出す）をしないこと、課題の提出期限を厳守すること、また授業中は質疑応答などで積極的に質問し意見を述べてもらいたい。

学習到達目標

F : 文献考証等をしっかりと行い、自己のオリジナルデータを収集して、研究として意義のあるものを追求する。

JABEE

関連する学習・教育到達目標 : F

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究2	小宮山 智志	1	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

人間と社会

目的と研究対象分野

人々の行動や考え方を“人と人との関係（社会）”に着目して“研究”することを目的とします。また社会でもっとも求められている能力の一つである「集団で目標を達成する能力」をお互いに協力して高めます。

「学校」が既存の情報・知識を覚えるところであるのに対し、「大学」とは、新しい情報・知識を創造する（=研究する）能力を身につけるところです。人々について新しい情報を創りだすには、他者の視点を取り入れる必要があります。社会で役立つ卒業研究を行うために、そして卒業後、社会で活躍するためにゼミの仲間や、さまざまな人々と協力することを学びます。研究例を一つ紹介します。

研究例：ある食品メーカーの製品では、アレルギー表示がパッケージの前面に「アイコン」で表示されています。このアイコンは、単にアレルギーを持っている方だけでなく、消費者一般に製品の安全・安心感を伝えることができ、購買を促進していることを明らかにしてくれました。紅葉祭で一般の方に2種類のパッケージを実際に見てもらい調査しました（彼はこのメーカーに就職しました）。

*他にも小宮山のホームページ (<http://www.nu.ac.jp/~komiyama/>) に研究例が紹介されています。

研究内容

グループワークを通して、他者の意見を参考にしながら、各自、研究計画と履歴書の自己紹介書を執筆します。

いずれも就職活動が本格化する3年次の2月までに終わらせておく必要があります。研究計画・自己紹介書の執筆は論理的な文章を書く大変良い練習です。また研究計画書が完成していると、研究に必要な時間の総量がある程度、把握できるため、安心して就職活動ができます。2つの課題を作成するために図書館・必要な文献の探し方（芽出式・ブラブラ検索・データベースの利用など）・研究方法の習得（仮説の立て方）、面接の練習を行います。卒業研究1~4いずれにおいても、グループワークを行い、お互いの意見を参考にしながら進めます。

9月 研究の3条件
仮説の立て方

10月 仮説の検証の仕方（インプリケーションと真理表）

11月 自己紹介文執筆のためのグループワーク
キャリアセンター訪問
自己紹介書の執筆

12月 文献の探し方
研究計画の作成
面接練習
自己紹介書の執筆

1月 卒論発表会に参加しての振り返り
研究計画の作成
自己紹介書の執筆

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

各回のグループワークでの活躍（50%）と、研究計画・自己紹介書で評価します（50%）。グループワークでアイディアを出すことはとても重要です。それと同時に、各自でアイディアを文章にまとめる力も養います。どちらもイーブン（50%ずつ）で評価します。

自己紹介書・研究計画書は春休みの面接練習・サブセミ等においてグループワークを通して、フィードバックします。

卒業研究活動についての留意事項

* 詳細は小宮山のホームページ (<http://www.nu.ac.jp/~komiyama/>) で公開します。

* 春休みにサブゼミ（1日程度）を開きます。日程等は参加者の皆さんの都合に合わせます。

* 先輩の卒業研究発表会には必ず出席してください。

* 無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。

* 虚偽の申告をした方は、単位の取得はできません。

学習到達目標

1. 自分の研究が社会にどのような貢献・影響を及ぼすか考察してください。
2. 新しく、社会に役立ち、根柢のある情報を創りだしてください。
3. 情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	内田 亨			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

C 分野・経営コース

目的と研究対象分野

本研究室では、卒業研究を通して、経営の理論の習得および社会人として通じるような実践的な人材を育成します。また、卒業論文では、問題設定が最も重要となります。教員は、「つまらない仮説」の検証や当然の結果が出るようなテーマを好みません。誰も気づいていないテーマに、ぜひ、挑戦してみてください。

研究対象分野は、営利（企業）・非営利（医療・福祉施設）にかかわらず主に組織体の研究をします。卒業研究のテーマは何でも構いません。教員および過去の卒研生の研究テーマのタイトル・キーワードには、次のようなものがあります（コーポレート・ガバナンス、人間的経営、サケ・ブリ養殖、リーダーシップ、起業家、CSR、フランスの大学病院、大学教員の自己開示、ガソリンスタンド、ソーシャル・キャピタル、感情労働、…）。こうしたことを学ぶことによって「健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決に当たることができる」人物像を目指す。

研究内容

1. 卒業研究 1 (3年前期)

- (1) 経営学関連の良書および研究方法に関する図書を章ごとに担当者を決め、要約と考察について発表してもらいます。
- (2) 地域貢献活動に応募し、採択の場合実践してもらいます。
- (3) 8月から9月までの間、希望者には、サブゼミとして業界・企業研究を行います。場合によっては、都内の大学と合同ゼミ合宿をする可能性もあります。
- (4) グループで笹山縄文文化の地域貢献に参加してもらいます。

2. 卒業研究 2 (3年後期)

- (1) グループで笹山縄文文化の地域貢献に参加してもらいます。
- (2) 研究方法に関する図書の輪読および講義によって、その理解を深めています。
- (3) 卒業論文の研究計画書を作成してもらいます。
- (4) 5大学合同ゼミ発表会に参加してもらいます（希望者）。
- (5) 3年生の指導として、サブゼミの運営をしてもらいます。

3. 卒業研究 3 (4年前期)

- (1) 卒業論文の形式・内容について指導をしていきます。
- (2) 担当者を決め、学会論文を輪読します。
- (3) 地域貢献活動に参加してもらいます。

4. 卒業研究 4 (4年後期)

- (1) 担当者を決め、学会論文を輪読します。
- (2) 卒業論文の中間発表をしてもらいます。

5. 卒業論文

- (1) 30ページ以上書いてもらいます。
- (2) 卒業論文の発表会を行います。
- (3) 卒業論文のデータ登録をしてもらいます。

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

[卒業研究 1, 2, 3, 4] ①要約と考察の出来栄え (40%)、②ディスカッションへの参加度 (40%)、③プロジェクト参加度 (20%地域貢献活動等)
 ①に関しては、添削して返却し、修正版を再提出してもらいます（フィードバック）。③に関しては報告書を作成してもらい、添削して返却し、修正版を再提出してもらいます（フィードバック）。

[卒業論文] ①独創性 (40%)、②論理性 (30%)、③形式・方法 (30%)。

卒業研究活動についての留意事項

- (1) 「自分はどこに行っても通用する人間になるのだ」という強い向上心と信念を持った学生を歓迎します。
- (2) ゼミのメーリングリストを作り、その中で出欠や情報交換をしていきます。
- (3) 井の中の蛙にならないように、インターネットを利用していきますので、積極的に参加してください。
- (4) 書くことが多くなりますので、文章力をつけるよう努力してください。
- (5) ゼミ生には、セルフ・マネジメントと、積極的にディスカッションに参画することが求められます。
- (6) 卒業研究を通して、社会に通用するスキル・能力・思考力を身につけるという意識を持ってください。
- (7) 後輩指導もしてもらいます。
- (8) 大学院進学を希望する学生も歓迎します。
- (9) 個別相談をするときには、A4用紙1枚程度のメモを書いてきてください。

学習到達目標

問題発見能力の醸成と自律的、計画的な論文作成を行うことができる。また、洞察力・考察力を育成する。

JABEE

関連する学習・教育到達目標 : F

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	白井 健二			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

B 分野

目的と研究対象分野

研究目的—金融資産の定量的評価、オプション価格決定理論の研究およびシミュレーションモデル作成評価の研究

研究対象分野一 本研究室では、金融資産の定量的評価をするために、欧米諸国で活用されている Discount Cash Flow (DCF 法) を学習することにより企業の理論株価を算定する。あるいは、オプション評価理論の基礎となるブラック・ショールズの方程式を学習し、オプション価格を算出する。また、(株) NTT データ数理システムが提供しているシミュレーションソフトウェア S^4 シミュレーションシステムを活用してシミュレーションモデルの構築およびシステム評価を実施する。研究室を志望する場合は、モデリング数学、コーポレートファイナンスを受講することが望ましい。

研究内容

卒業研究 2 (4年前期) : DCF 法の理解、オプション評価理論の理解およびシミュレーションソフトウェアの理解を主たる研究内容とする。

卒業研究 2 では、卒業研究 1 の継続研究として、次の 3 分野についての研究を用意している。

1. Discount Cash Flow (DCF 法) を活用した企業価値評価の研究

卒業研究 I で修得した経済用語および金融工学に関する基礎知識を基に DCF 法を実際に使ってみる。最終的に理論株価を算出する研究を進める。

2. オプション価格決定理論の研究

卒業研究 I で修得したオプション価格を決定する理論を基に、ブラック・ショールズの微分方程式の内部構造を修得する。このブラック・ショールズの方程式がどのように導かれているのかを研究する。難しい箇所もあるがしっかりと数学的な面での研究を進める。

3. シミュレーションモデル作成および評価の研究

近年、システムのシミュレーションを積極的に活用されている。卒業後の就職を考えて、定量的に物事を進めることが重要である。S^4 シミュレーションモデルを活用して、興味あるシステムのシミュレーションモデルの構築およびシステム評価の研究を行う。

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

<成績評価>

- (1) 卒業論文に沿ったテーマでレポート提出に 80 %。
- (2) 作成したレポートによるプレゼンテーションに 20 %。

卒業研究活動についての留意事項

研究活動の発表を逐次実施する。

学習到達目標

金融工学あるいはシミュレーション評価の修得を具体的な事例を基に研究する。各自が事例を選定し、卒業論文の作成を通じて論理的思考能力を身につける。また、定量的評価の手法を修得する。

(関連する学習・教育到達目標 : F)

JABEE

関連する学習・教育到達目標 : F

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	石川 洋			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

A 分野・D 分野

目的と研究対象分野

情報技術者にとって必須である、ソフトウェア工学またはコンピュータ及びネットワーク技術に関連した分野から各自が興味のあるテーマを設定し、研究、開発、環境整備などを行う。その成果を論文としてまとめ、発表する。研究過程で必要になる情報、技術、環境については輪講、実習、自主的な調査などで習得し、レジュメを作成して発表する。

研究を通して、問題設定、問題解決、知識共有、知識伝達などの能力を養い、自主的、計画的に情報をを集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する。

研究対象分野

A 分野（情報とシステム）

D 分野（コンピュータと通信）

研究内容

限定はしないが、以下のようなキーワードに関連するテーマ設定を想定している。

A 分野（情報とシステム）

- ・ソフトウェア工学関連（Java、開発環境、オブジェクト指向、リファクタリングなど）
- ・形式仕様記述関連（モデルチェックツールによる検証作業など）

D 分野（コンピュータと通信）

- ・コンピュータ関連（各種アプリケーションの設計、実装、評価など）
- ・ネットワーク関連（サーバ設定、ネットワークプログラミング（サーバ・クライアント、サーバサイドなど））

いずれの分野においても、要求定義、設計のプロセスを経て実装を行い、さらにテスト、評価を実施することが望ましい。

卒業研究 II では以下の内容を実施する予定である。

- ・卒業研究に必要な環境構築と知識の習得
 - 環境構築（Linux のインストールや各種サーバの設定など）
 - 事例研究（雑誌や論文の事例を調査・紹介する）
- ・卒業論文発表会の聽講
- ・卒業研究テーマの決定

使用する教材

配布資料、Linux 関連書籍など（相談の上決定する）

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

環境構築と動作確認（30%）、事例研究（30%）、卒論発表会聽講報告（10%）、卒業研究テーマの決定（30%）

卒業研究活動についての留意事項

- ・ICT 系の資格取得（取得済みの場合はさらに上位資格）をめざす意欲的な人を歓迎する。
- ・欠席する際は必ず事前に連絡すること。欠席した回は補講を行う。

学習到達目標

- ・自ら問題を設定し計画を立てることができる。
- ・情報を集めて考察または制作することができる。
- ・自らの見解を加えて記述し発表することができる。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	宇田 隆幸			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

社会科学系データの分析と知識発見 (A・B・D 分野)

目的と研究対象分野

卒業研究では、各種データを取り扱う研究を行なう。適宜、コンピュータを利用する。キーワードとなる専門用語は、自然言語処理、人工知能、データベース、データマイニング、テキストマイニング、Webマイニングなどである。主に社会科学データを取り扱い、人間社会に有用となる規則の発見やその応用を行う。たとえば、SNSからの話題を抽出、アンケートの設計や分析、近隣情報の収集と提供（観光、インフラの不具合、迷子ペットの情報統合システムなど）に関する研究を実施する。なお、テーマの内容によってはシステム開発が必要になる場合もある。学生は、これらに関連する分野から、各自の興味対象を選択して、卒業研究テーマを設定して、独自の発想や工夫を取り入れて研究・開発を行ない、成果を卒業論文としてまとめる。

- ・卒業研究 1 では、卒業研究を行う上で必要な知識の取得や学習を行い、卒業研究のテーマを決定する。
- ・卒業研究 2 では、各自で決定した卒業研究テーマについて、調査や制作および発表を行う。
- ・卒業研究 3 では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作および発表を行う。
- ・卒業研究 4 では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作を行い、研究成果をまとめて発表する。
- ・卒業論文では、各自の卒業研究テーマに関する成果をまとめて論文として作成し発表する。

研究内容

卒業研究 1：卒業研究に必要な基礎知識の習得と、卒業研究テーマの決定を行なう。

- ・プレゼン手法や論文の書き方および研究の進め方の学習
- ・プログラミング・自然言語処理・データマイニング等の分野について基礎知識の学習
- ・過去の研究テーマの紹介
- ・各自が興味を持った分野に関する調査と発表
- ・研究テーマの決定と計画書の作成（プレゼンおよびレポート提出）

卒業研究 2：各自決定した卒業研究テーマに関する調査と発表および制作と、就職や進学に関する情報交換を行なう。

- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・研究テーマに関する調査や制作
- ・大学生にむけて研究テーマに関する展示を行う
- ・4年生の大学祭における展示・発表を見る（レポート提出）
- ・中間発表会（プレゼンおよびレポート提出）
- ・4年生の卒業研究発表会に参加（質問、レポート提出）
- ・就職に関する情報交換
- ・就職について4年生と懇談会

卒業研究 3：各自の卒業研究テーマに関する調査と発表および制作と、就職や進学に関する情報交換を行なう。

- ・春休みの研究成果と就活状況の報告
- ・研究テーマに関する調査や制作
- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・就職に関する情報交換
- ・中間発表会（プレゼンおよびレポート提出）

卒業研究 4：卒業研究テーマに関する調査と発表及び制作と、研究成果のまとめを行なう。

- ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換
- ・研究テーマに関する調査や制作
- ・大学祭における成果の展示・発表
- ・研究室内における成果発表会（成果報告の最終締切）
- ・卒業論文の執筆と添削
- ・卒業論文の発表の練習と本番発表
- ・卒業論文データベースへの登録

卒業論文：卒業研究の調査と発表および制作を行ないながら、成果をまとめて論文として作成し、発表を行なう。

- ・研究テーマ決定の計画書や、中間報告、成果報告の内容をまとめていく
- ・大学祭が卒業研究の成果作成の締切となるので、それ以降は論文を完成させる
- ・論文の提出、発表会での発表、データベース登録の3つが単位取得の条件となる

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業研究 1：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業研究 2：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業研究 3：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業研究 4：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。

卒業論文：論文(60%)、発表(40%)により評価

（論文：新規性、独創性、有用性、完成度による。発表：内容、わかりやすさ、態度、質疑応答の的確さによる）

卒業研究活動についての留意事項

- ・プログラミングに関する卒業研究を行なう場合は、プログラミングに関する演習や講義を受講しておくことが望ましい。
- ・卒業研究の配属時に希望者が定員を超えた場合の選考は、(1)志願書の内容、(2)研究室訪問時の面接内容、(3)担当教員の授業の履修状況(4)情報処理演習の履修状況の順で判断する。

学習到達目標

- ・自ら問題を設定し、計画を立て、情報を収集して考察・制作することができる。
- ・問題について、自らの見解を加えて論文として取りまとめ、発表することができるようになる。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
410028	XYY3410028			国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
		1	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
卒業研究 2	藤田 美幸			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	専門	必修	3年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

分野

C 分野：経営と組織

目的と研究対象分野

本研究室では、企業や組織の商品（サービス）の企画を学びます。主に産学共同研究を行ないます。

商品（サービス）企画とは、顧客の「感動」をデザインする知的格闘技です。

企業や組織が成長するに欠かせない企画力を身につけることを目標としています。

なお、この科目は「自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力を養う」ための科目のひとつになります。

研究内容

<企画力を身につけるため、取り組む課題>

商品（サービス）は、顧客の「感動」を生み出します。そのため顧客志向が大切になります。

(1) 顧客志向を探るには、思い込みでなく実際に生じているデータを集め、提示します（エビデンス）。

二次データ（統計資料や既存の文献など、他人が集めた結果として既にこの世に存在するデータ）はもちろんのこと、出来る限り一次データ（自分で集めたデータ）を集めます。

(2) 商品（サービス）の評価をおこないます（ポジショニングアプローチなどを用いる）。

(3) アイデアを発想し選択します（アイディアソンなどを用いる）。

(4) 3で選択されたアイデアについて構成する要素の最適な組み合わせを探ります（コンジョイント分析などを用いる）。

(5) 成果物として、発表会等でパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行い、研究報告書を提出します。

* 調査方法やその分析方法については、場合に応じて卒研の中でレクチャーしていきます。

<卒業研究 1, 2, 3, 4 共通>

他学年と3, 4名ずつのグループに分かれ、産官学連携プロジェクトをおこない、結果をまとめて発表会にて報告します。

* プロジェクト内容は学生の興味に応じて変更する場合があります。

* 他学年、他大学との共同プロジェクトの場合もあります。

<卒業研究 2 (3年後期)>

(1) 文献調査

・図書館などを利用し、各テーマについての学術論文や書籍を検索します。

・各テーマに関連する学術論文を読み、知識を深めます。

(2) 卒業研究のテーマの選択

・複数の学術論文を読み、以下の点についてまとめた卒業研究計画書を作成します。

・タイトル

・研究目的：学術的背景、研究で明らかにする点、研究の特色と独創性、仮説

・研究方法：調査内容、手続き、分析方法

・引用文献

<卒業研究 3 (4年前期)>

(1) 研究計画の発表

・卒業研究 2 の終了時までに作成した研究計画書の内容について発表し、議論します。

同研究室や他研究室に対して、自分自身の研究の背景、目的、仮説、方法、予測される結果について、わかりやすく説明します。

・発表者以外のメンバーは、発表者の研究計画の問題点を指摘し、問題を解決するための方法を提案します。

(2) 研究の進捗状況についての報告

・発表スライドは、タイトル・目的・仮説・方法・結果・考察から構成されます。

・発表や発表資料の内容について、研究室全員で議論し、よりわかりやすく伝えるための提案をします。

(3) 中間発表

・7月に卒業研究の中間発表を実施します。（他研究室と合同予定）

(4) 卒研進捗報告書を提出してもらいます。

<卒業研究 4 (4年後期)>

・卒業研究の内容を研究室メンバーが相互に確認しコメントします。

・11月に卒業研究発表会の予行をします。

・卒研進捗報告書を提出してもらいます

<卒業論文>

・30 ページ以上書いてもらいます。

・卒業論文の製本と卒業論文登録データの作成をします。

・卒業論文発表会原稿の作成をします。

・文章の修正箇所のまとめをします。

・論理的文章作成のための個人別資料作成をします。

・1月に卒業論文発表会を行います。

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業研究における討論、報告、発表（30点）、提出課題レポート（30点）、プロジェクト参加度（40点）により評価する。

卒業研究活動についての留意事項

<休業期間中も継続して研究活動をおこなうことが求められます。>

・クラウド上のグループワークの中で情報交換を行います。

・ゼミ生は、積極的にディスカッションし参画することが求められます。

・卒業研究の授業に就職活動などで欠席の場合は、事前にメールで連絡してください。必ず別の日にメールでアポイントを取り指導を受けること。これを行わなければ卒業論文が完成しなくても責任は持ちません。

・卒業論文の提出、卒業論文発表会での発表、卒業論文のDB登録の全てを行わないと単位を与えません。

・卒業研究の授業に就職活動などで欠席の場合は、事前にメールで連絡をすること。必ず別の日にメールでアポイントを取り指導を受けること。これを行わなければ卒業論文が完成しなくても責任は持ちません。

学習到達目標

卒研をとおし、社会人への重大なパスポートとなる企業や組織では不可欠の「感動」を商品化する能力、すなわち（一人で）調査・分析・考察をし、企画力を身につけることを目標とします。
具体的には、以下の3つが学習到達目標です。

（1）コミュニケーション能力

異学年や学外の方と共に課題に取り組むこと。それにより自分の考えを表現する力を身につけることを目標とします。

（2）実践的な能力

共創により、さまざまな課題に取り組み、学内外で表現することで実践力を身につけることを目標とします。

（3）発想力・企画力・実行力

課題解決の積み重ねにより、具体的なプランとして提起する力を身につけることを目標とします。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習